

令和3年度南大沢スマートシティ協議会

第3回協議会

2022年2月4日
(13:30-14:30)

第3回協議会

#	次第
1	開会（東京都）
2	座長挨拶（座長）
3	協議会の体制変更のご報告
4	部会・協議会の振り返り
5	実証実験の振り返りと議論
6	南大沢スマートシティの将来像の議論
7	実施計画更新の方向性のご報告
8	その他
9	閉会（東京都）

協議会と部会のメンバー追加

情報・その他部会のアドバイザーとして、東京都立大学相原教授にご参画いただきました。また、モビリティ部会及びまちの賑わい部会に、東京都住宅供給公社様、まちの賑わい部会に、ベスプラ様にご参画いただきました

協議会構成員

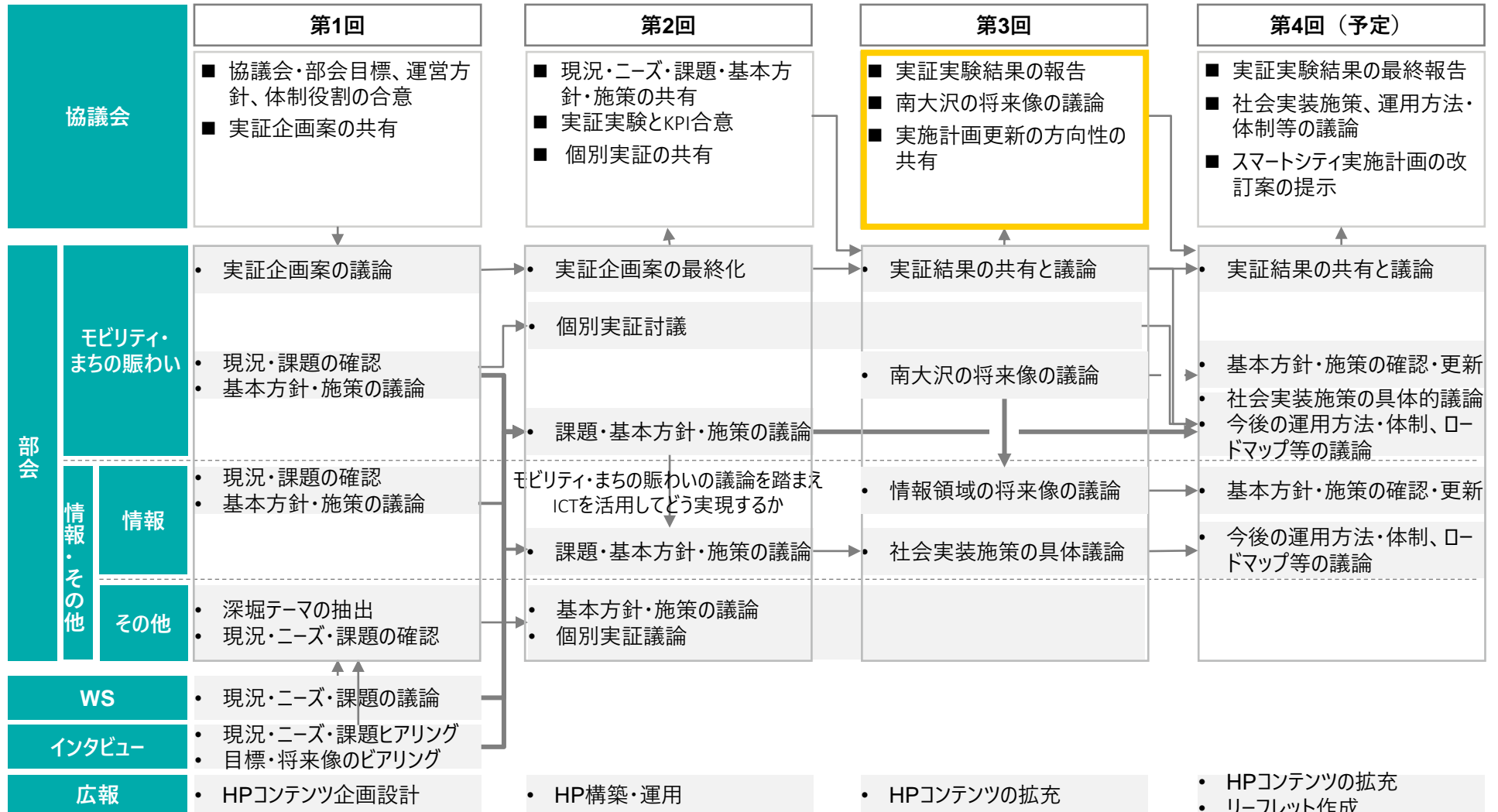
協議会構成員以外団体

赤字：新規参画委員

南大沢スマートシティ協議会 座長：清水教授（東京都立大学）			
	モビリティ部会	まちの賑わい部会	情報・その他部会
部会長	清水教授（東京都立大学） アドバイザー：小根山教授（東京都立大学）	岡村准教授（東京都立大学）	石川特別先導教授（東京都立大学） アドバイザー：相原教授（東京都立大学）
PL	京王電鉄株式会社 <small>MaaS関連部門 (バス事業者)</small>	三井不動産株式会社	今後必要に応じて設置
構成員	電動シェアサイクル事業： OpenStreet株式会社 自動運転バス関連： Boldly株式会社	商業サービス関連： 株式会社ベスプラ	通信サービス他： NTTドコモ株式会社 KDDI株式会社 ソフトバンク株式会社 東日本電信電話株式会社 株式会社JTOWER 富士通Japan株式会社
	通信サービス他： NTTドコモ株式会社 KDDI株式会社	商業施設等： 株式会社多摩ニュータウン開発センター 京王電鉄株式会社 株式会社イトーヨーカ堂 「元気な街」南大沢協力の会	商業・業務施設等： 株式会社多摩ニュータウン開発センター 三井不動産株式会社 <small>サテライトオフィス シェアオフィス事業部門</small> 「元気な街」南大沢協力の会
	独立行政法人都市再生機構 東京都住宅供給公社	独立行政法人都市再生機構 東京都住宅供給公社	〇ーカル5G他： 東京都立大学
	東京都 (都市整備局：市街地整備部、総務部)	東京都 (都市整備局：市街地整備部、総務部)	東京都 (都市整備局：市街地整備部、総務部、 デジタルサービス局)
	八王子市 (都市計画部)	八王子市 (都市計画部、産業振興部)	東京都 (環境局：地球環境エネルギー部)
	八王子市 (都市戦略部、産業振興部)		

第3回協議会の位置づけ

第3回協議会では、実証実験結果の報告、南大沢スマートシティの将来像の議論、実施計画更新の方向性の共有を行います



※部会は必要に応じて回数変更や合同開催等、柔軟に開催・運営する

第2回協議会の意見

前回協議会で委員の皆様からいただいた意見を今後の協議会運営に生かしてまいります

委員らからのご意見

将来像

- スマートシティ化により、今の南大沢の何がどのようにアップデートされるのかのモデルを示す必要がある。そのためには、各施策の組み合わせと実施方法等、将来性の議論が必要である。改めて将来像を議論する機会を設けていただきたい。
- 現在「事業体」と仮置きしている今後の運営主体の担い手も議論する必要が出てくるだろう。

社会実装施策

- 施策一覧（案）には令和5年度社会実装に向けた実現可能性が高いものと低いものが併記されているようだ。社会実装に向けた実現可能性を精査していく必要があるのではないか

実証実験

- 実証実験で得られるデータは可能であれば共有いただきたい。実証実験という形で南大沢の現状に介入することで生じる結果を知ることが肝要である。

その他

- 八王子市も住民生活の質の向上を目的としてDX推進計画を検討している。加えて、地域づくりの長期ビジョン形成を目的として、地域の声を聴く取組を行っており、現在は八王子市西部地区をモデル地区としているが、今後は東部地区にまで対象エリアを拡大予定である。この取り組みとDX推進計画を合わせて、地域づくりとして連携できると望ましい。

協議会としての対応

- 部会長やPL等による将来像検討会や第3回部会で将来像を議論し、また、今回の協議会にて将来像の認識合わせを行います。この将来像を踏まえて、次回の部会以降、施策の組合せや実施方法等について具体的に議論していくとともに、必要に応じて、議論した内容を将来像にフィードバックしていきます。
- 今後、各施策の事業スキームや体制について議論していくとともに、運営主体となり得る事業者等についても、関係者と調整しながら具体的に議論していきます。
- 昨年度の施策一覧（案）は、あくまで現時点での実施可能性のあるものを列挙したものであるが、今後、評価指標に基づく短期施策を再整理し、サービス提供者、実装場所、事業スキーム等の観点から、社会実装に向けた施策内容の具体化を行います。
- 実証実験で得られたKPI指標等の実績データについては報告し、共有します。その他のデータについても事業者等と協議・調整し、可能な範囲で共有します。
- 今後、八王子市DX推進計画の内容も踏まえて検討を進めるとともにスマートシティ実施計画を取りまとめていきます。また、推進計画の取組と連携しながら、南大沢における先端技術を活用したまちづくりを推進していきます。

(補足①) モビリティ・まちの賑わい部会の報告

実証実験については、web上の情報発信により実証への興味関心を得られたものの、参加者が少ないことから、TAMa-GOのUI改善、サービス間連携の促進等の改善点が挙げられました。将来像については、既成市街地のスマートシティ化、市とニュータウン両者の歴史・文化を所有する点が街の特徴であること、これら既存の魅力と先端技術が融合した姿を目指すべきとの意見がありました

第3回モビリティ・まちの賑わい部会 (12/24)

～実証実験の振り返り～

コース 施策のインパクト 結果サマリ

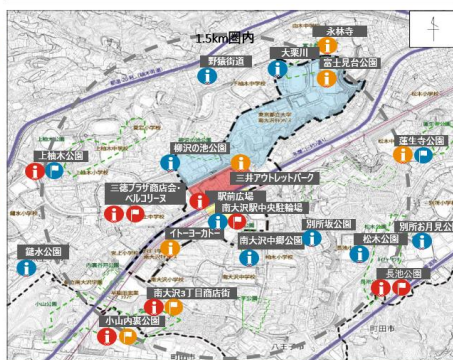
南大沢駅周辺エリアから南部地域のスポットへの興味・関心や移動が集中している傾向にあります

	単位	合計	参考値
認知 興味・関心	広告・PR	実証LP PV	40,877 16,000
	デジタルマップ	南大沢PV	PV 3,628 1,200
移動 まちの賑わい	webチケット	お買物券・周遊券	セット 集計中 500
	スタンプラリー	参加者	回 837 600
体験	新規登録者数	人	392 1,530
	TIMESALE	登録商品数	高/週・店舗 0.37 *1 2.5
		販売成立数	件 14 N/A
移動 モビリティ	シェアサイクル	利用者数	人 317 N/A
		利用回数	回 678 N/A
	サボタク	-	集計中 N/A

4.実証実験の振り返り議論



施策ごと利用回数マップ



✓全体：駅中心～南部のスポットの興味・関心や移動が集中
 ✓×①：スタンプラリースポットほどデジタルマップの閲覧数が多い

※太字：「合計」(実績)が参考値を上回った数値 *1 期間中の過去の登録商品数から算出した平均値

16

～将来像の議論～

10年後、20年後を見据えた南大沢スマートシティの進め方

- 南大沢はコンパクトなまちやウォーカブルなまちが実現
現在の土地利用やインフラを維持しつつ、最大限活用
- 「先端技術を南大沢の象徴」とすることで、まちの利便性や魅力をさらに高めていく
- まち全体が「先端技術のショーケース」となるように、行政、大学、地元企業、通信事業者等が、率先して取組を進めるとともに、先端技術を実施する事業者に対し、フィールドを提供
- 人やモノが集中する駅直近には、先端技術のコアとなる取組を先行して実施
- 環境負荷が少ない次世代技術の積極的な採用



先端技術の
ショーケースエリア

先端技術コア
エリア

24

資料 イメージ

振り返り

- ユーザーアンケート結果、事業者の考察を踏まえ、良かった点・改善点を議論
- web上の情報発信により、実証への興味関心を得ることができたものの、参加者が少ないことからTAMa-GOのUI改善、サービス間連携の促進、大学等と連携した集客力あるコンテンツ提供をすべきとの意見あり
- 次年度以降も、継続したイベント開催による街への定着化が必要との意見あり

- 南大沢スマートシティの目指すべき姿等の将来像を議論
- 既成市街地においてスマートシティ化を目指している点、八王子市と多摩ニュータウン両者の歴史・文化を所有している点が街の特徴との意見あり
- 街の新陳代謝を進めること、既存の魅力と先端技術を融合させること、来街者や地域住民の実移動を創出することを目指すべきとの意見あり
- 将来像はプレーヤーの視点から検討との意見あり

(補足②) 情報部会の報告

第5回部会ではICTインフラやICTインフラを活用したサービスの概要についてインプットを行いました。第6回部会では、情報領域の将来像と、まちの賑わい及びモビリティ領域の社会実装施策（候補）の実現に必要なICTインフラを検討しました

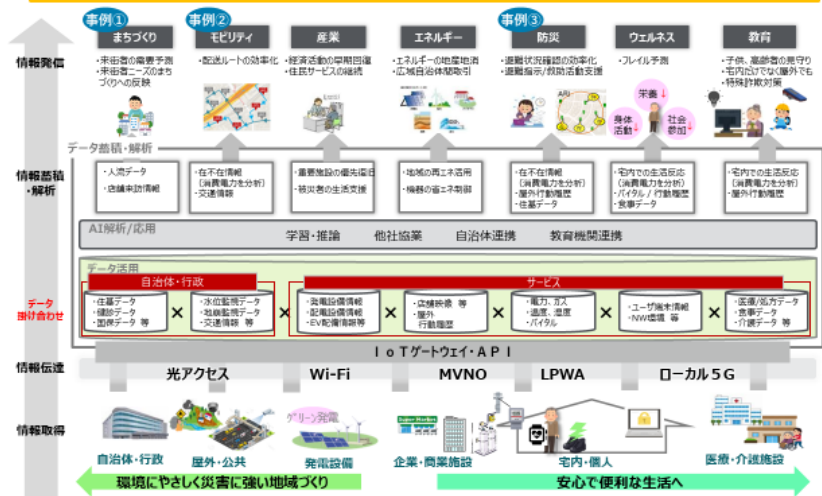
第5回情報・その他部会（11/30）

～ICTインフラに関する勉強～

スマートシティにおけるデータ活用について（一般事例）

6.情報領域のICTインフラの議論（勉強会）

● 街の様々なデータの収集・解析により、社会課題の解消や暮らしやすい街作りを目指す



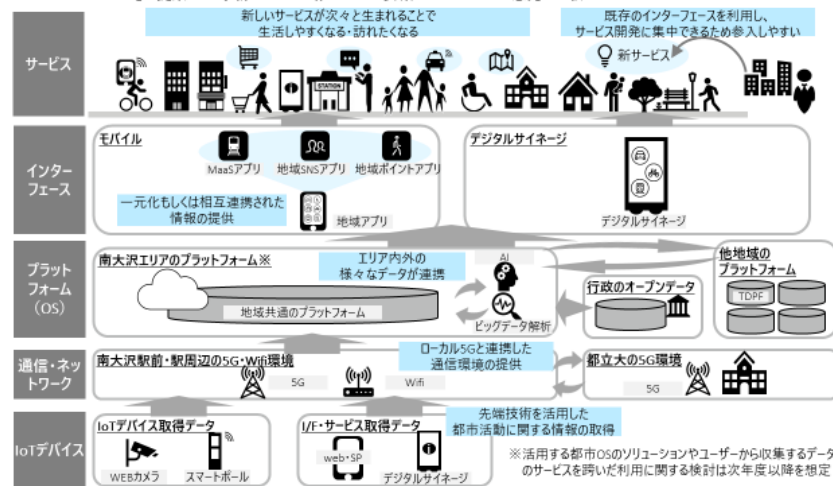
資料
イメージ

第6回情報・その他部会（1/25）

～情報領域の将来像・社会実装施策の議論～

情報領域の将来イメージ

「一元化もしくは相互連携された情報の提供を行うインターフェース」や「エリア内外の様々なデータが連携する南大沢エリア共通のデータプラットフォーム」を提案します。新たに追加・修正すべき要素がありましたらご意見をお願いします



振り返り

- 課題・基本方針・施策を議論
- 国や東京都の取組、その他事例を踏まえ、情報領域（ICTインフラやサービス）の概要についてインプット
- 南大沢エリアにおいても、まずはエリア共通のプラットフォームを立ち上げ、将来的には他地域と連携可能な形を目指すべきとの意見あり

- 実証実験の振り返り、情報領域の将来像、社会実装に必要なICTインフラを検討
- 情報領域の将来像として、他地域と連携可能なエリア共通のプラットフォームや、一元化された情報の提供を行う地域アプリを整備する方向性を合意
- パーソナルデータの取り扱い方法等の運用方法についても、今後議論すべきとの意見あり

(補足③) その他部会の報告

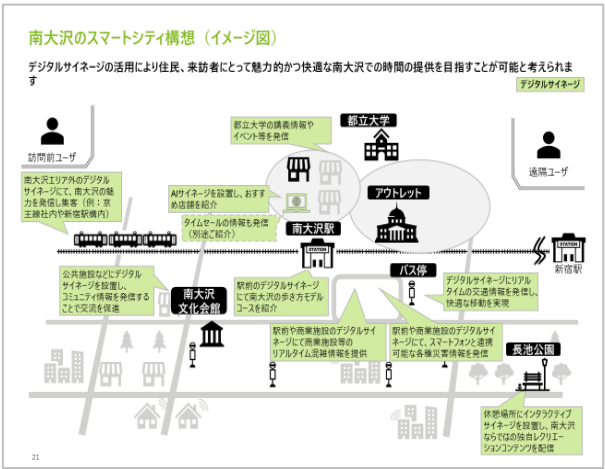
第3回部会はデジタルサイネージ、第4回部会は3Dマップについて、先進事例を基に南大沢における活用案を検討し、各活用案について想定される活用方法、社会実装への実現性を検討しました。また、ピッチイベントを開催し、参加した17事業者の中で、電動キックボードシェアリングサービスを提案した「BRJ」が優勝しました

第3回情報・その他部会 (10/28) ～デジタルサイネージ活用案の議論～

第4回情報・その他部会 (11/17) ～3Dマップ活用案の議論～

ピッチイベント (11/29) ～移動利便性向上サービスの提案～

資料
イメージ



振り返り

- 活用案、活用方法、実現性を検討
- 行政のお知らせ等、**PULL型の情報をデジタルサイネージを活用してPUSH型で発信**との意見あり
- 「来る」、「到着後に街を知る」、「周遊する」の3つの観点から活用方法を検討との意見あり

- 活用案、活用方法、実現性を検討
- 災害リスクや、リアルタイムの災害情報、避難経路の可視化等、**防災分野における活用案**について多くの意見あり
- 初期ターゲットはサービスを使いこなせる層を設定すべきとの意見あり

- 「最先端技術を活用した南大沢のまちの活性化と移動利便性の向上」のテーマで開催
- 「自由なタイミングで、好きな場所へ移動できるまちへ」を提案した**電動キックボードシェアリング事業者である「BRJ」が優勝**

(報告④) インタビュー・ワークショップの振り返り

インタビュー（全9/9事業者）は、情報領域として、PUSH型情報配信を実現するIoTソリューションの提供を行う（株）夢現舎へインタビューを行いました。第2回ワークショップでは、社会実装に向けた実証施策の論点を明確化するため、住民や来街者を対象に、本年度実証へのご意見をお伺いしました

情報領域インタビュー（12/23） ～（株）夢現舎へのインタビュー～

先端技術を活用したまちづくりに向け、情報分野に関する以下の内容についてお伺いいたします

#	質問事項
1	現状の取組・課題 地域交流の促進、安心・安全のまちづくりについて、現在、貴社が実施している取り組みについてお伺いいたします (例：ビーコン・GPSを活用したアプリでの地域情報の多言語配信、地域の歴史文化情報の配信と音声ガイドの配信、交通機関の運行情報の配信、医療機関情報の配信、防災・防犯・避難所情報の配信等)
2	上記実施における、貴社や地域のニーズについてお伺いいたします (例：店舗・駐車場情報等のまち案内情報の発信、即時性のある情報の提供、対応施設・イベントの拡大、交通情報の一元化、リアルタイム混雑情報の配信、被災・集散状況のリアルタイム避難誘導等)
3	上記実施における、貴社や地域の課題についてお伺いいたします (例：貴社と八王子市・民間事業者が繋がる場の不足、アプリの認知度不足、イベント参加者・希望施設の不足、交通情報サービスの分散、混雑情報のオープン化が進んでいない、サービス利用者集中時の通信障害・遅延等)
4	課題への対応 上記の課題解決に向けて考えていること、取り組んでいることについてお伺いいたします (例：自治会・商工会議所との連携、駅デジタルサイネージを活用した情報発信、SNSを活用した魅力発信、複数民間事業者の情報を一元化した交通情報(MaaS)との連携、医療機関との連携、5G環境の構築による通信障害軽減等)
5	今後の展望 上記に関して、今後どのようなことに取り組みたいかについてお伺いいたします
6	上記を含めて、貴社としての長期的なビジョンについてお伺いいたします
7	先端技術の活用 「南大沢スマートシティ実施計画」で検討している施策（地域サービス統合アプリ、データマネジメントプラットフォーム、5G アンテナ、LPWA、ビーコンセンサー、ビッグデータ解析・AI）の活用や社会実装についてお伺いいたします (例：有効性・利便性、技術的・運用上の課題、採算性・実現性等)
8	上記以外の施策（先端技術やサービス）があればお伺いいたします (例：パーソナライズ生活情報提供等)
9	まちづくりへの期待、協議会への要望・協力 将来のまちづくりへの期待、協議会に対する要望があればお伺いいたします
10	協議会の取り組みにご協力いただけるかお伺いいたします (例：実験への参加や社会実装に向けた取組)

1 令和3年度南大沢スマートシティ協議会

資料
イメージ

第2回ワークショップ（2/1） ～実証実験に関する議論～

実証実験にご参加いただき、どのような体験をしたのかを議論してください

②議論パート（前半）

議論ポイント

✓ 施策に参加して、どのような体験をしたのか
（何をきっかけに実証を知り、いつ/頻度、どこで、何をしたら、これまでの生活とどのように変わったか）を記載ください ※事前宿題

✓ 各自5分程度で発表してください

✓ 参加した施策の良かったところ・課題に感じたところを議論してください

実証の体験（例）

知る	南大沢駅前のポスター
体験	いつ 11月の週末 どこで 駅前とxx公園・xx公園 何を シェアサイクルを利用してスタンプラリーに参加
変化	これまでは南大沢は駅近くのみの利用だったが、今後は公園を継続的に利用したい

etc

観点（例）

- 施策の分かりやすさ
- 使いやすさ・参加しやすさ
- サービスの機能
- 価格
- 施策の場所
- 施策の告知

振り返り

- BeaconやGPSを活用したPUSH型情報配信実現のIoTソリューションを提供する夢現舎へ、現状の取組・課題・対応、展望、先端技術活用状況をインタビュー
- デジタルサイネージと連動した情報の多言語配信や災害時の情報提供に意欲あり
- 南大沢町内会で情報デジタル化の回覧を実施し、今後は地域住民情報基盤アプリによる単一プラットフォーム内の情報発信の拡大に意欲あり

- 社会実装に向けた論点を明確化するため、住民や来街者を対象に、本年度実証へのご意見をお伺い
- 広報・PRについて、公共交通や施設内でのPR不足、サービスイメージが伝わりづらいとの意見あり
- スタンプラリーについて、設置場所間の繋がり強化、地域活動等を通じたスタンプの付与等の意見あり
- シェアサイクルについて、充電・ポート数の不足、予約開始時間の拡張、サブスクリプションサービス、子供用自転車導入の意見あり

本アジェンダにおけるゴールと論点

本アジェンダでは、実証実験の結果について共通認識を図ることを目的に、社会実装に向けた今後の対応について議論を行います

ゴール

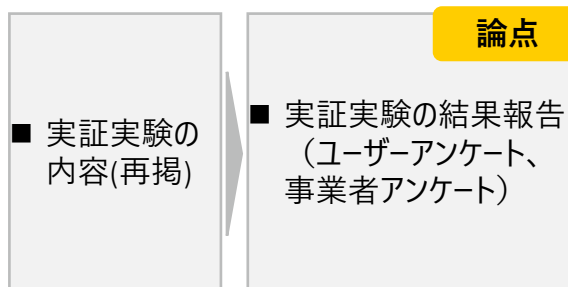
- 実証実験の結果について、共通認識を図る

論点

実証実験の結果を踏まえ、社会実装に向けた今後のサービス内容や改善点・課題等についてご意見を伺う

報告の流れ

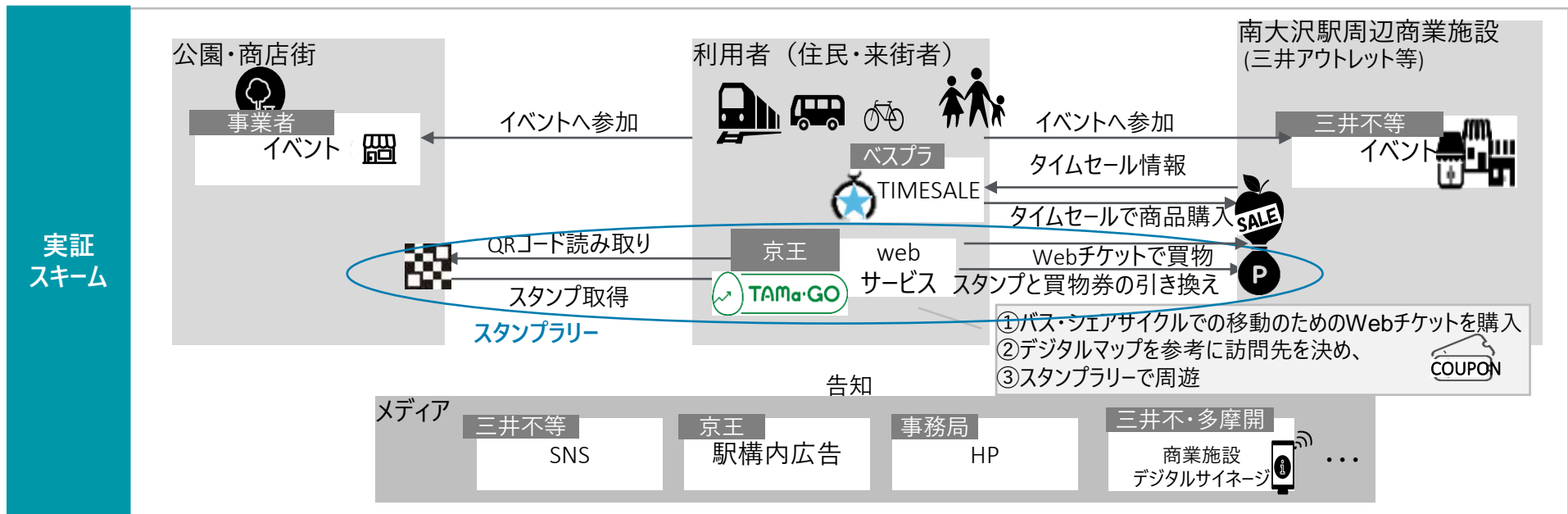
- 事務局より、実証実験の内容及び結果を説明した後、論点を議論する



参考：実証①（回遊性向上×まちの賑わい）

まち全体で「めぐって遊んでトクして南大沢を楽しもう！」と題し実証を開催し、住民や来街者が駅周辺の商業施設や自然エリアの回遊を促すスタンプラリーを核としたサービスの実証を実施しました

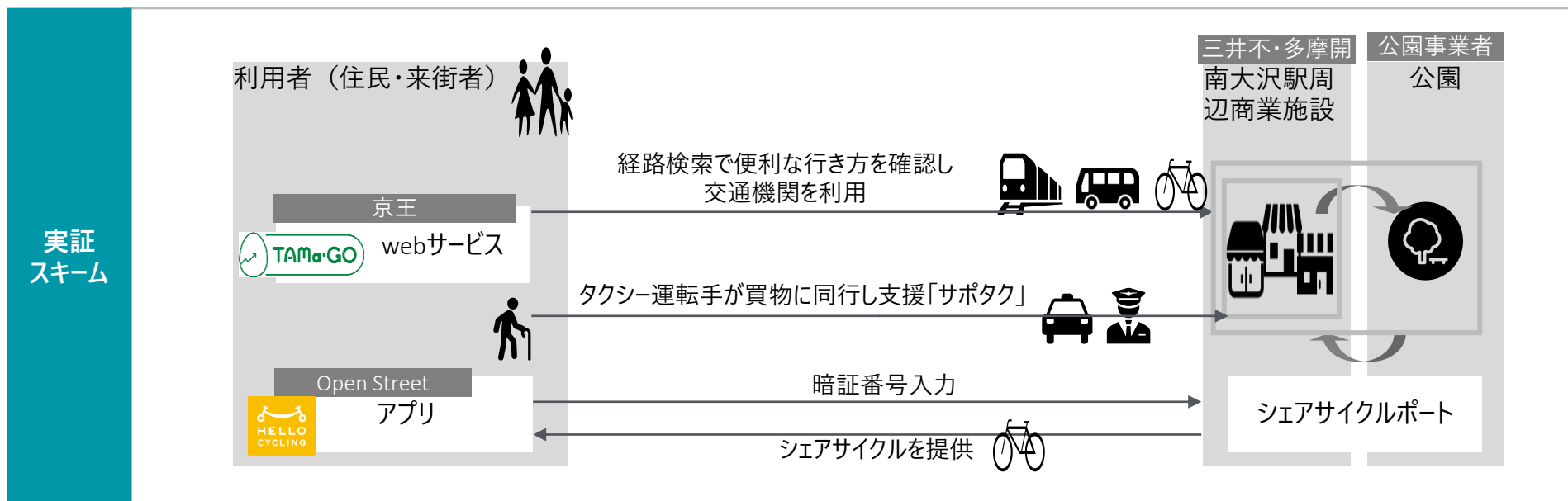
目的	公共性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 訪問・外出目的創出 ■ エリア内の回遊性向上 	来街	<ul style="list-style-type: none"> ■ まち全体での「めぐって遊んでトクして南大沢を楽しもう！」の周知
	事業性	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会実装を見据え、施策の持続性を検証 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 移動及び買物の共通Webチケットの活用
対象	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住民 ■ 来街者 		回遊促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生による地元ならではの視点を取り込まれたスポットのデジタルマップ上での紹介 ■ 公園や駅前施設への訪問によりスタンプを取得し、商業施設で使える買物券へ交換ができるスタンプラリー ■ 商業施設周辺にいる顧客へのタイムセール ■ 公園や商業施設で開催するイベントをデジタルサイネージにより案内
	期間	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2021年11月1日～2021年11月30日 		



参考：実証②（モビリティ×まちの賑わい）

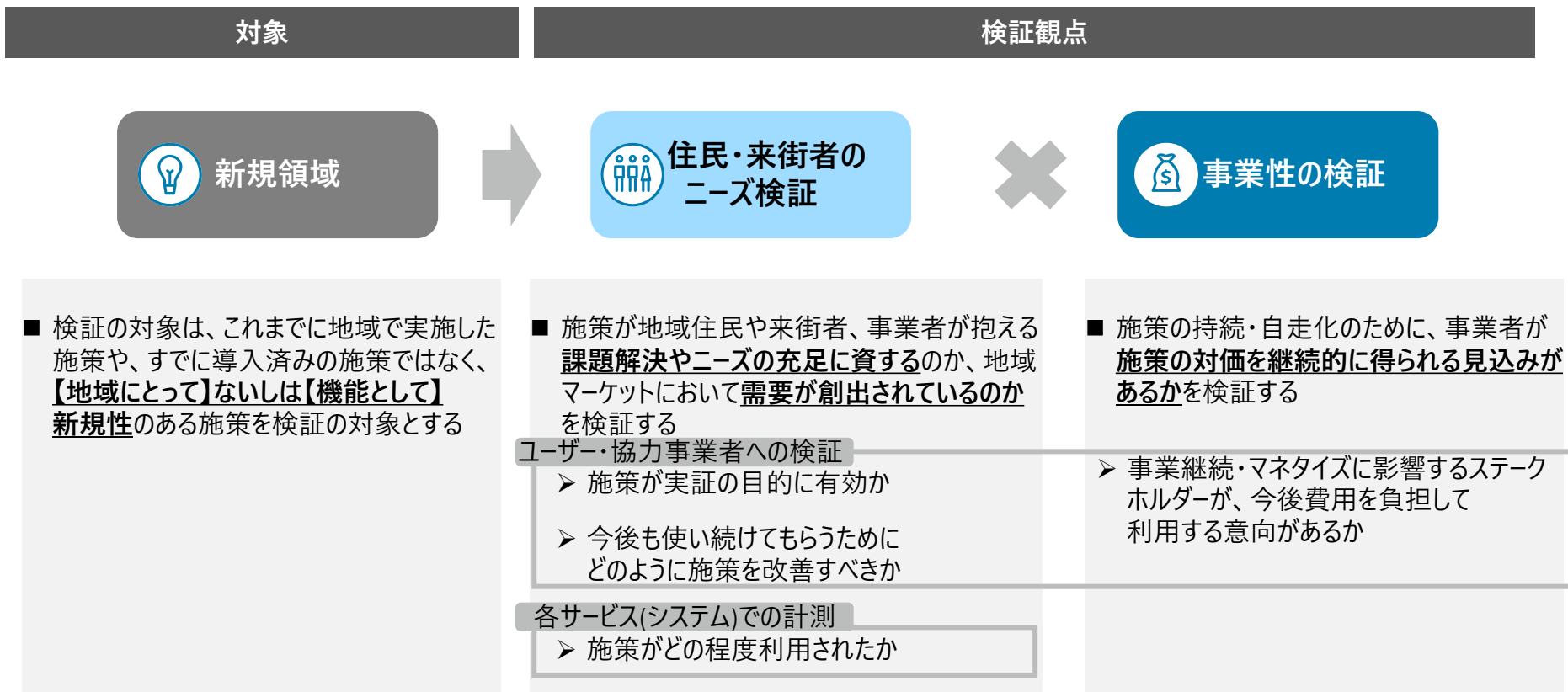
丘陵地における地域のマルチモーダル化を核としたMaaSやシェアサイクル等のサービスの実証を実施しています

目的	<p>公共性 ■ 丘陵地における移動の快適さ向上 ■ 訪問・外出目的創出</p> <p>事業性 ■ 社会実装を見据え、施策の持続性を検証</p>	実証概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ MaaSのオンラインサービスプラットフォーム（PF：TAMa-GO）による、<u>マルチモーダルな経路探索</u> ■ <u>タクシーによる買物支援サービス「サポタク」</u>の提供 ■ <u>南大沢エリアにおけるシェアサイクルサービス</u>の提供
対象	<ul style="list-style-type: none"> ■ 住民 ■ 来街者 		
期間	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2021年11月1日～2022年1月31日 ※サポタクは年末年始を除く 		



実証実験における効果検証の考え方

実証実験は、新規性のある施策に対して、課題解決やニーズの充足に資する公共性及び事業として持続可能かといった事業性を評価します



ユーザー・協力事業者への検証

ユーザーや協力事業者へは、アンケートやワークショップにより、検証に関する情報を取得する想定です
 本日は実施済みのユーザー及び事業者向けアンケートの結果をご報告します

		ユーザー		協力事業者
		広くユーザーから、簡易な形式で 意見を取得する	一部ユーザーから 深い情報を得る	協力事業者 協力事業者から 意見を取得する
		共通webアンケート	ワークショップ	アンケート
		2021/11-12	2022/2	2021/12
属性情報		<ul style="list-style-type: none"> 属性情報に関する設問を設定 (年代・性別・居住エリア(南大沢か否か)) 	<ul style="list-style-type: none"> 属性情報を確認 (年代・性別・居住エリア(南大沢か否か)、職種) 	
ニーズ	目的達成の有効性	<ul style="list-style-type: none"> 施策ごとに、目的達成に関する有効性を1問ずつを目安に設定 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験に参加した際の詳細の行動を確認 	<ul style="list-style-type: none"> N/A
	サービス改善	<ul style="list-style-type: none"> 満足度と要望に関する設問を設定 	<ul style="list-style-type: none"> 施策への新規性の実感や関心の高さを確認 複合的な施策の影響を確認 	
事業性	事業の継続性	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーが料金を支払うwebチケットとタクシーについて、費用を支払ってサービスを継続利用する意向の設問を設定 	<ul style="list-style-type: none"> N/A 	<ul style="list-style-type: none"> 協力事業者が今後手数料等を支払ってサービスを継続利用する意向の設問を設定
満足度 目標回答率(数)		<ul style="list-style-type: none"> 施策参加者のうち 3% (回答数44件*1) 	<ul style="list-style-type: none"> 10名 	<ul style="list-style-type: none"> 施策参加事業者のうち90%
目標値		<ul style="list-style-type: none"> 4段階評価中 平均2.6以上 	<ul style="list-style-type: none"> N/A 	<ul style="list-style-type: none"> 4段階評価中 平均2.6以上

*1 母数：2600、許容誤差：5%、信頼度：95%から統計的に算出
 (母数はスタンプラリー・webチケット・TIMESALE目標利用者数の合計)

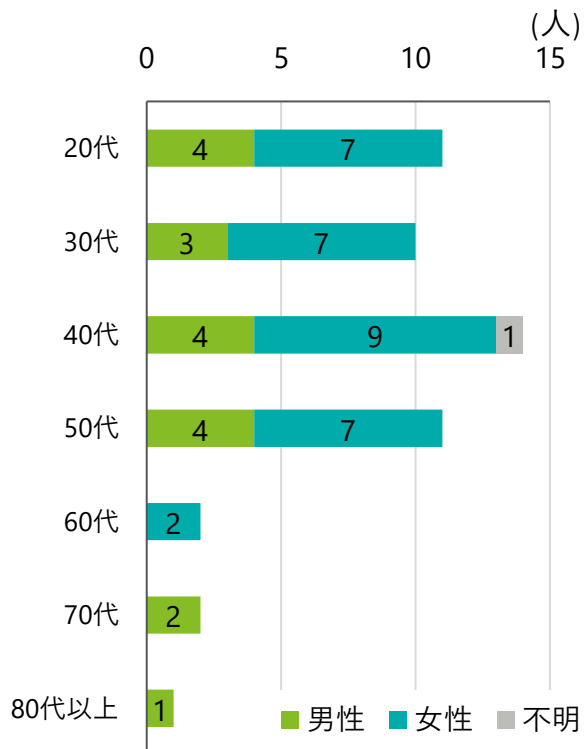
共通アンケート概要

実証実験参加者を対象としたアンケートを実施いたしました

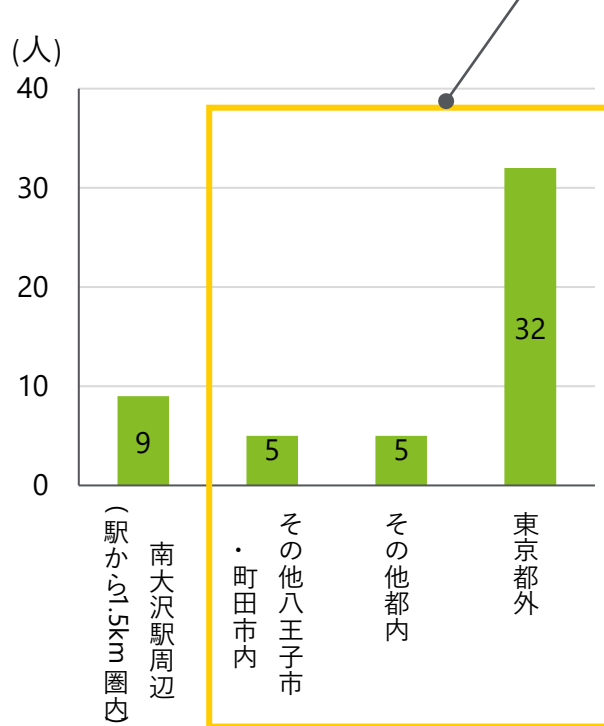
共通アンケート概要

- 期間：11月1日（月）～12月13日（月）
- 対象：実証実験の参加者（N=51）（目標回答率（数）：施策参加者のうち**3%**（回答数44件））
- 形式：web

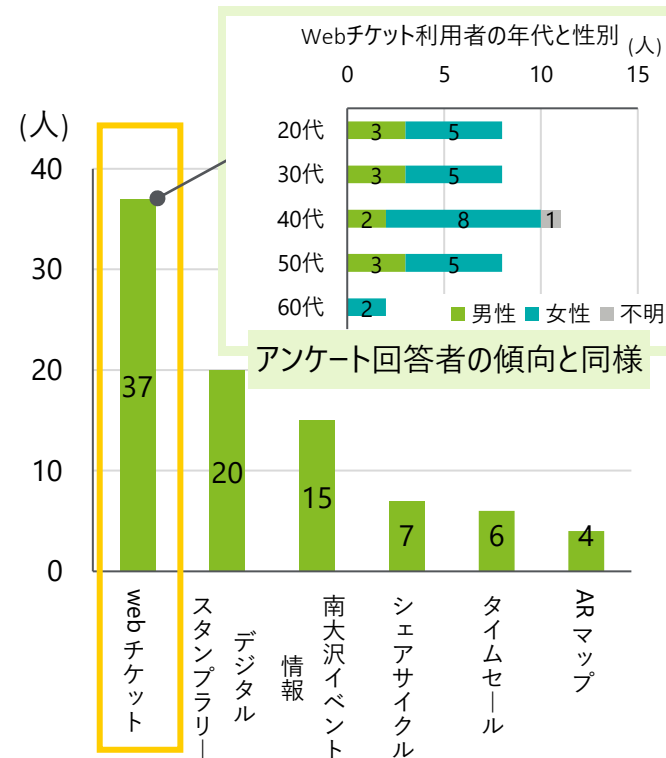
アンケート回答者の年代と性別



アンケート回答者の居住エリア



アンケート回答者の参加施策 (※複数回答)



ニーズ

目的達成
の有効性

結果

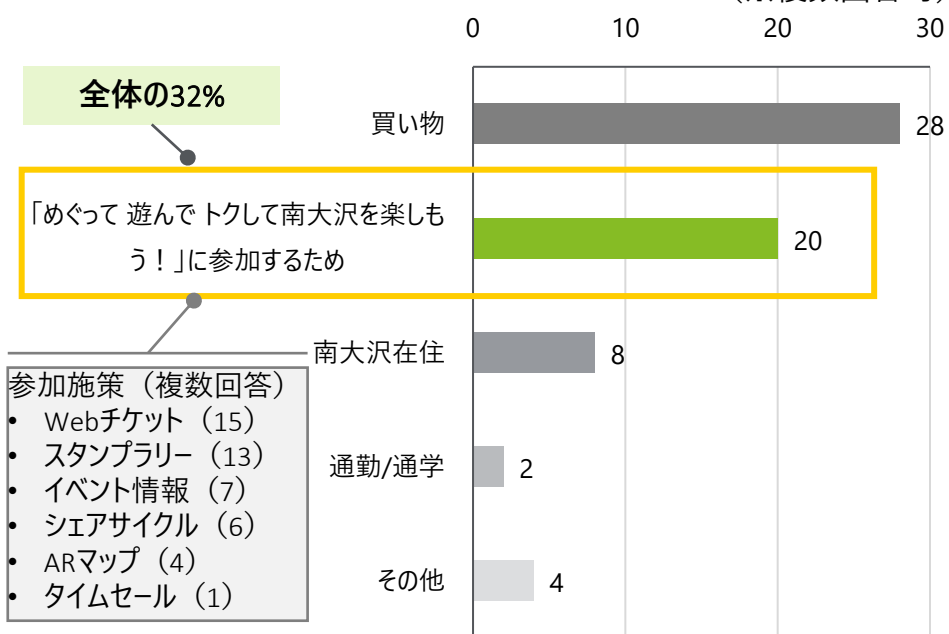
実証実験により新たな来街の需要が促され、デジタルマップにより地域スポットの興味・関心喚起、スタンプラリー・シェアサイクルによる未訪問スポットへの訪問・回遊が実現しました

訪問目的創出

✓ 南大沢を訪れた理由

N=51

(※複数回答可)



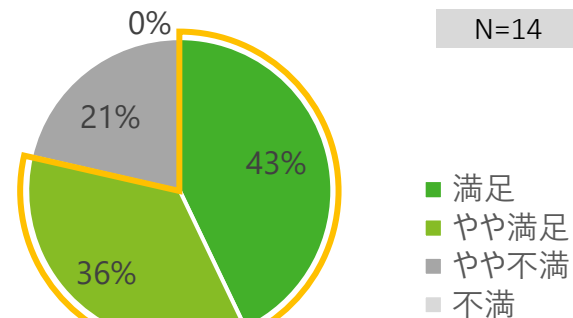
✓ 実証実験により南大沢を訪れるきっかけを創出

回遊性向上

✓ デジタルマップのスポット・内容満足度

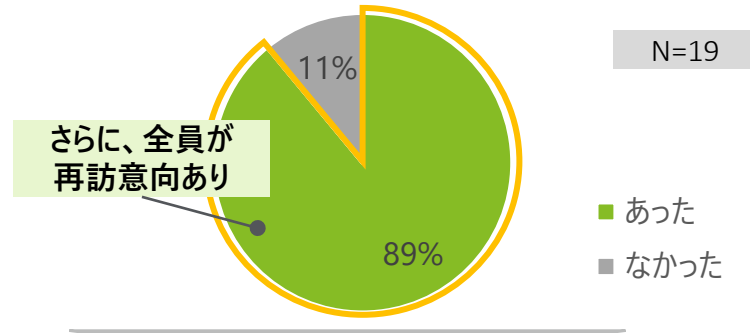
N=14

興味・関心



✓ スタンプラリーやシェアサイクルによる、あまり訪れない/これまでに訪れたことのない場所への訪問

移動・体験



✓ デジタルマップにより南大沢の個別スポットへの興味・関心が喚起され、スタンプラリーやシェアサイクルにより未訪問スポットを訪問・回遊

ニーズ

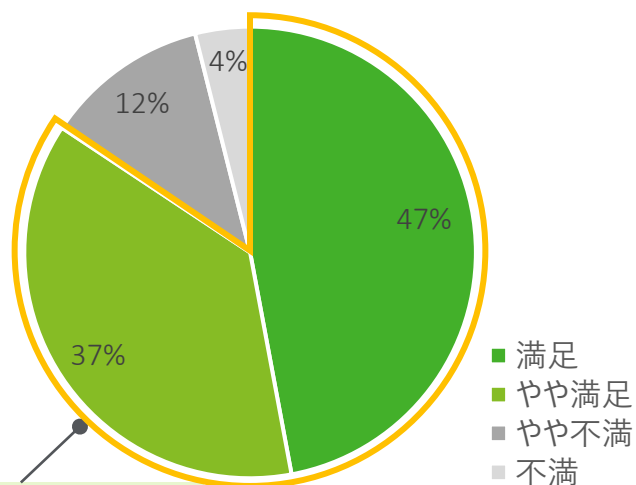
サービス
改善

結果

実証実験のサービス全体として、平均8割が「満足」・「やや満足」と回答しており、利用者に満足いただける内容を提供し地域の魅力発見・体験に繋がったと考えます

✓ 「めぐって 遊んで トクして南大沢を楽しもう！」の満足度

N=51



実証全体として
「満足」・「やや満足」が
約8割（平均3.27）

目標値

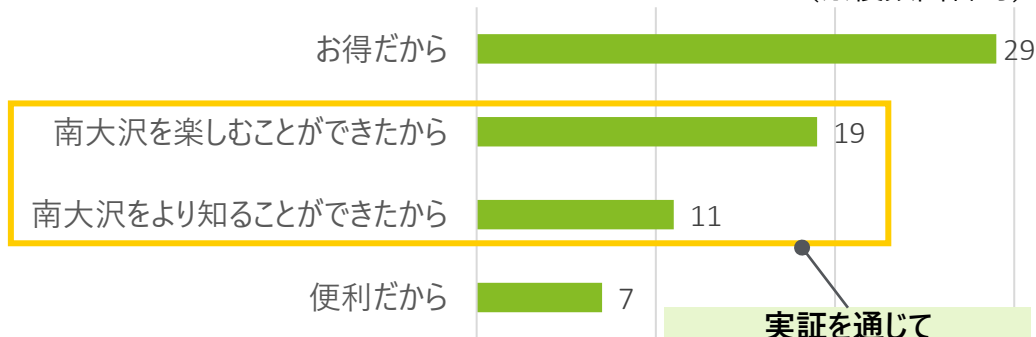
■ 4段階評価中 平均2.6以上

✓ 満足度理由

<「満足」・「やや満足」回答者>

N=43

(※複数回答可)



実証を通じて
南大沢の魅力発見・
満足する体験を提供

<「不満」・「やや不満」回答者>

N=4

(※複数回答可)











ニーズ

施策の
インパクト

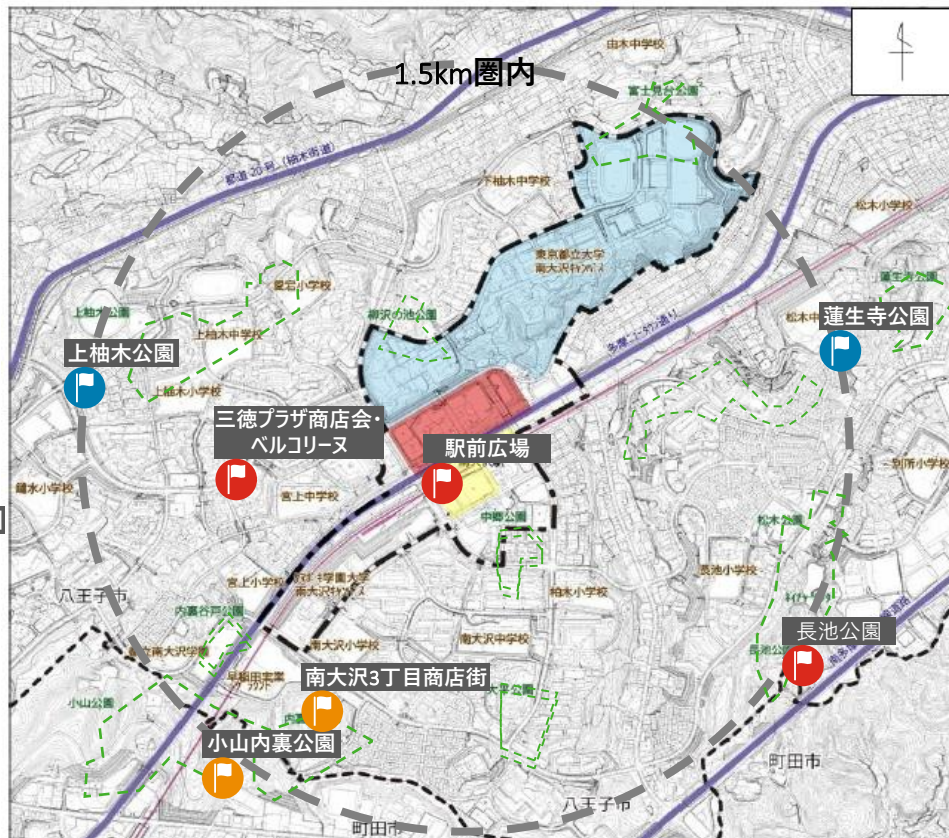
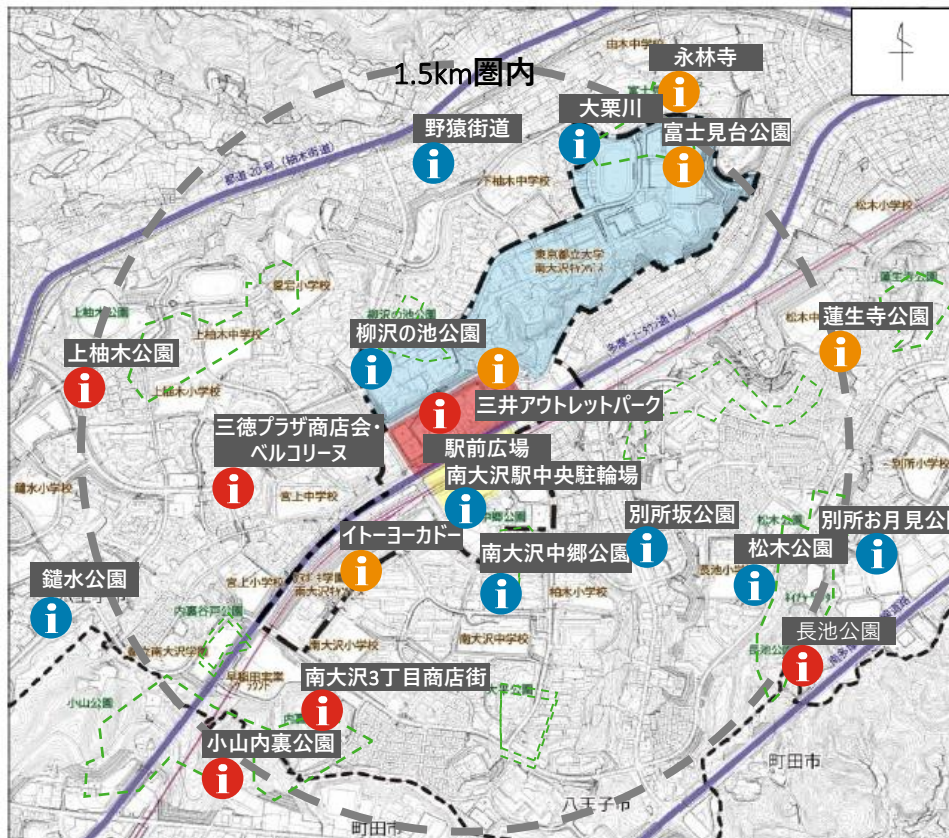
結果サマリ



南大沢駅周辺エリアから南部地域のスポットへの興味・関心や移動が集中している傾向にあります

凡例			
	11/1~30の デジタルマップ PV数(回)		11/1~30の スタンプラリー 取得数(回)
	301-		501-
	51-300		301-500
	0-50		0-300

デジタルマップの利用回数マップ

スタンプラリーの利用回数マップ



- ✓ 全体 : 駅中心～南部のスポットの興味・関心や移動が集中
- ✓  ×  : スタンプラリースポットほどデジタルマップの閲覧数が多い

ニーズ

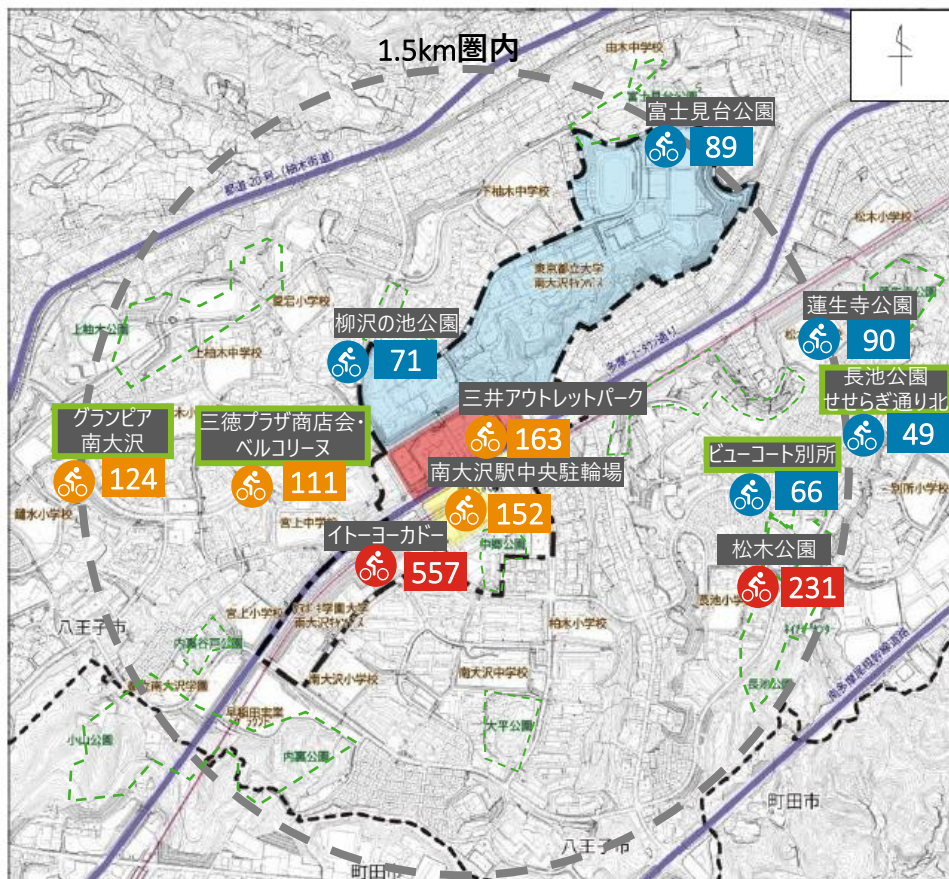
施策の
インパクト

結果サマリ (シェアサイクル)

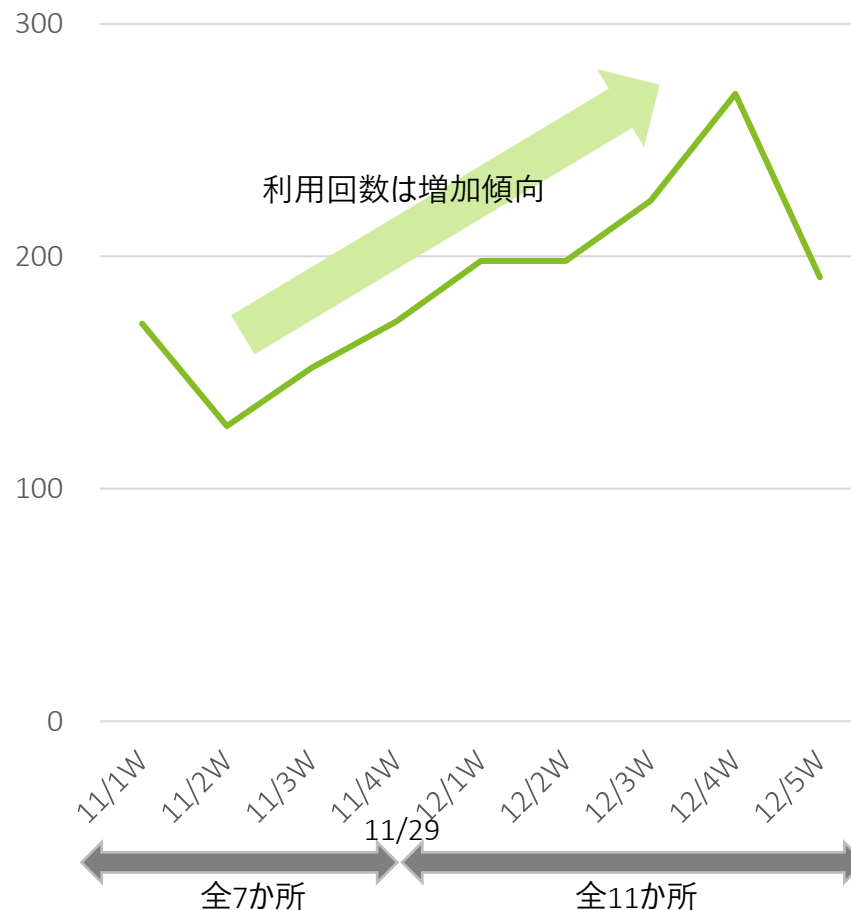
シェアサイクルは11月開始時は7か所、11月末以降は4か所新たに設置し計11か所ポートが設置されており、年末を除き利用回数は増加傾向となっています



シェアサイクルの利用マップ



利用推移



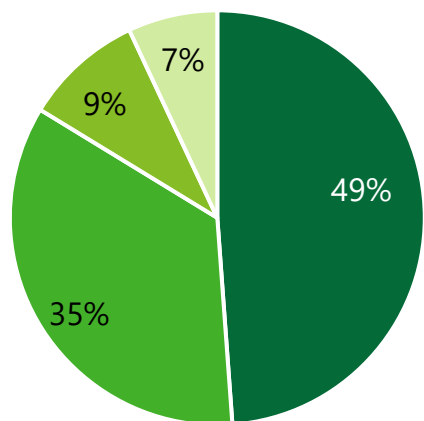
事業者向けアンケート概要

実証実験協力事業者を対象としたアンケートを実施いたしました

共通アンケート概要

- 期間：2021年12月8日（水）～2022年1月16日（日）
- 対象：実証実験の協力事業者 55施設
- 回答率：78%（N=43件）（目標回答率：**90%**（回答数50件））
- 形式：web

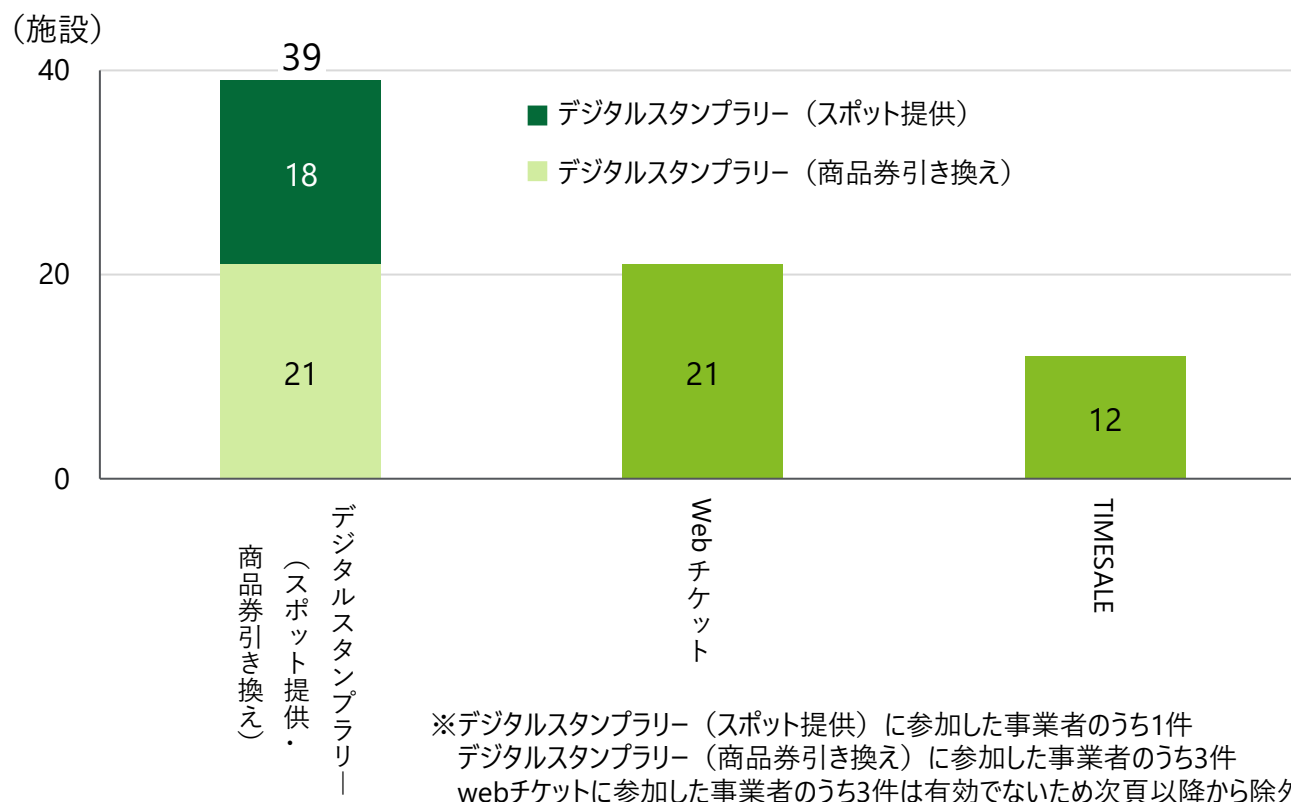
アンケート回答者の分類



- 駅前商業施設内店舗
- 商店街加盟店
- 公園
- その他個店

アンケート回答者の参加施策

（※複数回答）



事業性

事業の
継続性

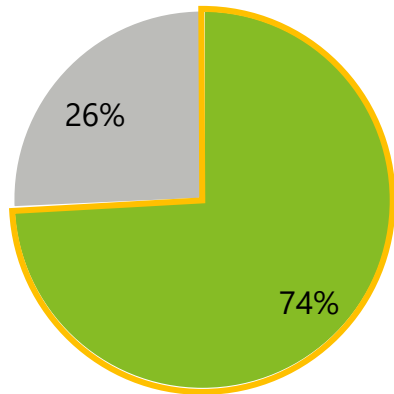
結果

費用負担を伴わない場合は施策継続に対して前向きな反応が見られました。

施策を継続させるべく、事業者にどの部分をどのように協力してもらうか、スキームの慎重な検討・調整が必要です

✓ スタンプラリー

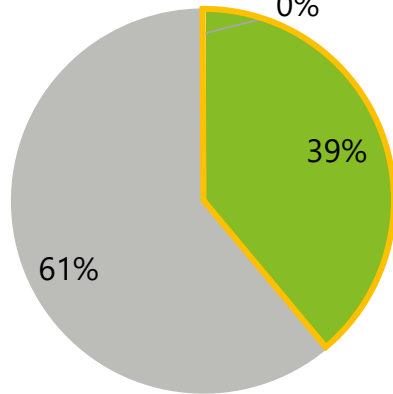
N=35



- 継続したい
- 継続たくない

✓ webチケット*1 費用負担：要

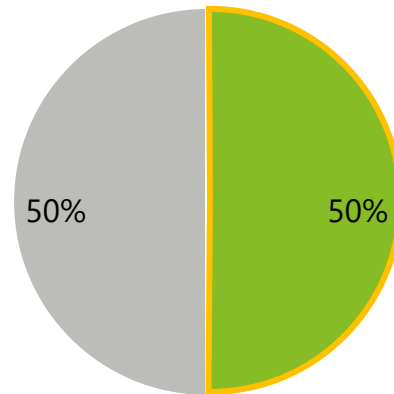
N=18



- 決済手数料*2に加え、一定の原資*3の負担をしても継続したい
- 決済手数料*2のみであれば継続したい
- 継続たくない

✓ TIMESALE

N=12

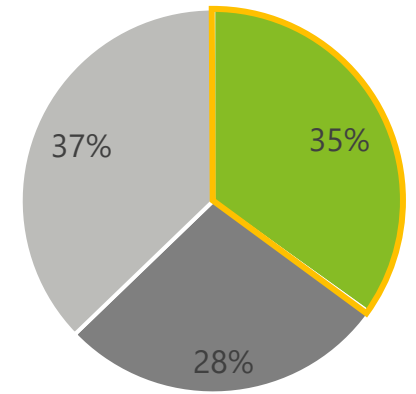


- 継続したい
- 継続たくない

✓ 地域で連携した情報発信

費用負担：要

N=43

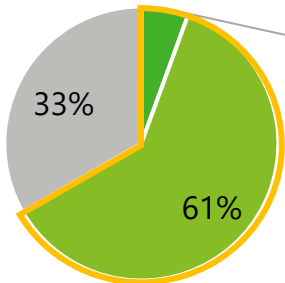


- 事業者間で広告費の調整を行い、連携した広告発信をするのが良い
- 事業者間で連携した広告発信は必要ない
- その他

✓ スタンプラリー（商品引き換えのみ）

費用負担：要

N=18



- 事業者間で調整を行い、景品等を決めたうえで参加手数料がかかっても継続したい
- 無料であれば継続したい
- 継続たくない

継続
たく
ない

- 店舗の売り上げに影響せず、**効果が期待出来ない**ため（スタンプラリー他）
- 店舗の決済手段が多く**オペレーションが煩雑**になるため（webチケット）
- アプリ自体の**認知度が不足**していると感じるため（TIMESALE）
- 事業者間で連携する際の**調整が負担**であるため（情報発信）

*1：手数料や原資の負担がある場合のみ「継続したい」と回答する設計

*2：発売額の3%程度を想定

*3：今回5500円分の商品券を5000円で販売

結果・振り返りサマリ

実証のよかった点、課題、今後の対応策等の本日の議論を踏まえ、実証実験の振り返りを深めていきます

		ニーズ					事業性	
		目的達成の有効性	サービス改善	施策のインパクト				
				単位	合計	参考値		
認知	まちの賑わい	広告・PR	• 内容やインセンティブの分かりやすい訴求が肝要	実証LP	PV	40,877	16,000	<ul style="list-style-type: none"> 協力事業者からの費用を払っての継続意向は少なく、施策スキームの見直ししないしは協力事業者へのメリット訴求方法の検討が肝要
		デジタルマップ	訪問目的創出 • N/A	南大沢PV	PV	3,628	1,200	
興味・関心	webチケット	実証実験により南大沢を訪れるきっかけを創出した • サービスの操作への満足度は約8割と高いが、一部操作性改善の要望あり	お買物券・周遊券	セット	集計中	500		
		回遊性向上 • 一部スタンプラリーの読み取りの分かりづらさの声があり、ユーザーへの分かりやすい操作設計が肝要	参加者	回	837	600		
移動	スタンプラリー	デジタルマップにより南大沢の個別スポットへの興味・関心が喚起され、スタンプラリーやシェアサイクルにより未訪問スポットを訪問・回遊 • 登録者数はいるものの登録店舗・出品数が少なくユーザーの利用機会が乏しい	新規登録者数	人	392	1,530	<ul style="list-style-type: none"> 別事業で採算見込みのため事業として継続可 	
			登録商品数	品/週・店舗	0.37 *1	2.5		
体験	TIMESALE	バッテリーの充電への不安定なため、安定的な供給が求められる(バッテリー交換頻度改善済み) • (1月までのサービス実施の中で検証)	利用者数	人	317	N/A	<ul style="list-style-type: none"> TBD 	
			利用回数	回	678	N/A		
移動	モビリティ	シェアサイクル						
		サポタク				集計中	N/A	

*1：期間中の週次の登録商品数から算出した平均値

※太字：「合計」(実績)が参考値を上回った数値

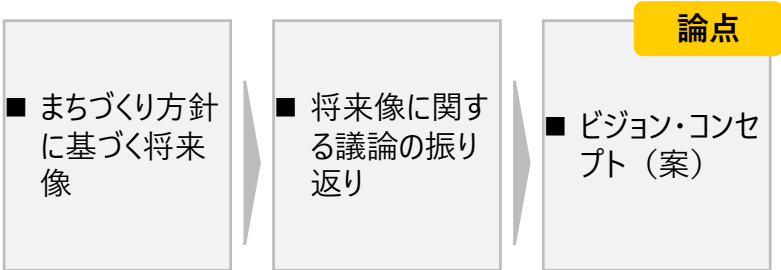
モビリティ、まちの賑わい、情報・その他部会での意見

12月に第3回モビリティ・まちの賑わい部会、1月に情報・その他部会を実施し、実証実験に関して多様な意見をいただきました

	モビリティ部会	まちの賑わい部会	情報・その他部会
PL・サービス事業者による振り返り	<p><結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 回遊性向上を目的としたスタンプラリーであったが、駅から離れた公園でも、一定の参加者が得られた <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ TAMa-GOから南大沢webチケット購入画面までの動線が分かりづらい。またwebチケットの内容がポスターの内容では分かりにくく個別施策ごとのPRが必要 ✓ 参画店舗が限られていたことから、地域全体がスマートシティ実現に向けた共通認識の醸成を図る必要がある 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ スタンプラリーインセンティブの付与ルールが分かりづらく、またインセンティブの内容の訴求も不足していた ✓ ポスターを見つけづらく、QRコード認証が分かりづかったためUIの向上が望ましい ✓ TIMESALEの店舗/施設の発信数・発信頻度が少なく、事業者にとっての魅力・使いやすさの磨き込みが肝要である 	<p><結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ AIカメラによる混雑状況検知では、実証実験期間において密となっている状況は稀であった ✓ AI Beaconによる来街者人流解析では、実証実験期間は、人数及び平均訪問回数は増加傾向にあり、実証実験期間のスポット間の回遊率は、増加傾向がみられた
部会での議論	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スタンプラリー達成者の約1割は60歳以上であり、サービスの導線と魅力的なインセンティブの付与によって、高齢者にも利用をしていただける可能性がある。 ✓ MaaSアプリは、南大沢への来街者の視点だけでなく、地域住民の視点も含めるべきである ✓ 。 ✓ 都立大学の学生・教職員への情報の浸透を図るため、南大沢駅から都立大学への導線内でPRを実施する等今後検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 南大沢駅を起点として周辺エリアを回遊するためには、移動の障壁が大きいと考えており、駅でイベントを認知し、イベントに参加することはハードルが高いと考える。情報発信だけでなく、集客力のあるイベントや取組の検討が必要である。 ✓ 実証施策のみを対象とした場合は参加状況が低い一方、駅前地区は一定程度賑わいが創出されたと感じる。今後は、時間をかけて地域の巻き込みに取組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ NTT東日本の実証実験に関しては、技術検証のみならず、スポットの訪問者数に占めるスタンプラリーへの参加人数等を分析し、実証実験の取組がまちに与える影響を検証すべきである。

本アジェンダにおけるゴールと論点

本アジェンダでは、南大沢スマートシティの将来像（ビジョン・コンセプト）の方向性をすり合わせることを目指し、議論を行います

<p>ゴール</p>	<p>➤ <u>南大沢スマートシティの将来像（ビジョン・コンセプト）</u>の方向性をすり合わせる</p>
<p>論点</p>	<p>南大沢スマートシティの将来像となるビジョン、コンセプトについて、<u>内容の妥当性や新たに追加・修正すべき要素</u>を議論する</p>
<p>議論の流れ</p>	<p>➤ 事務局よりまちづくり方針に基づく将来像と将来像に関する議論の振り返り、議論内容を踏まえたビジョン・コンセプト（案）を説明した後、論点を議論する</p>  <pre> graph LR A[まちづくり方針に基づく将来像] --> B[将来像に関する議論の振り返り] B --> C[ビジョン・コンセプト（案）] D[論点] --- C </pre>

土地利用の現状

- 駅前に**都立大学**が存在
- 駅直近に商業・業務・公共施設が集積し、都市が**コンパクト化**
- 駅周辺に都営・公社・UR住宅等の**複数の団地**が存在
- 広域集客施設である**アウトレットモール**が存在
- **丘陵緑地**が残っている

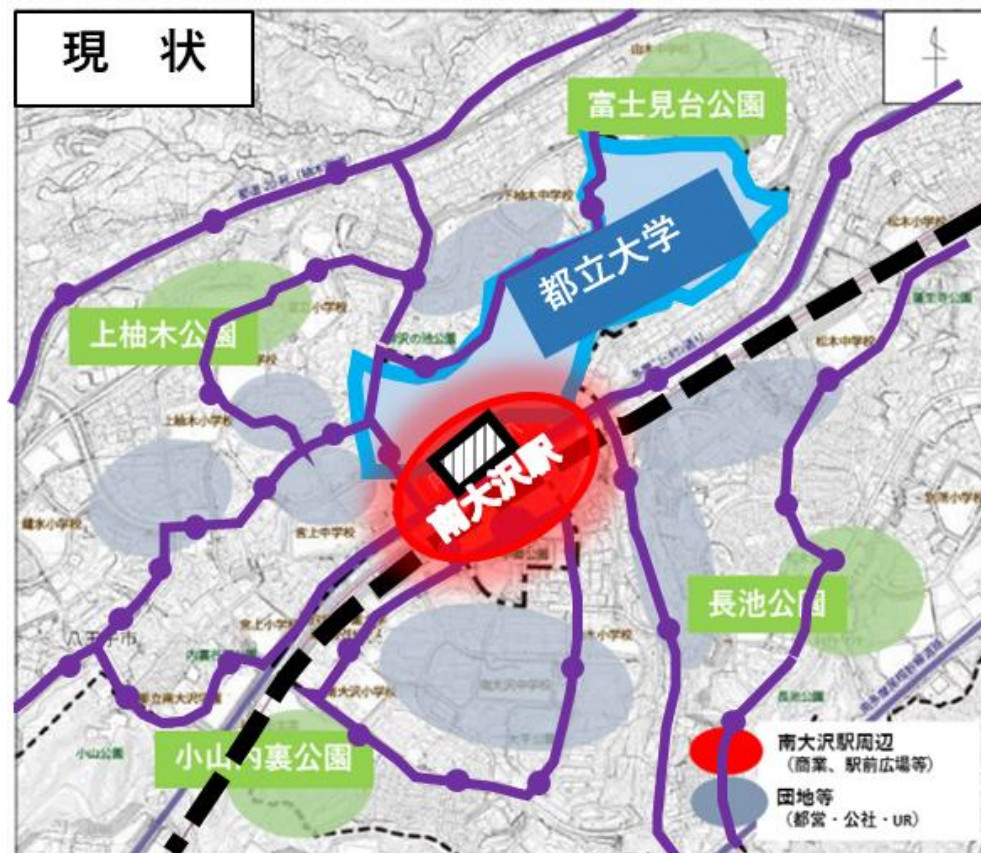
- 既存バス路線バス停
- 駅直近の商業業務集積エリア
- アウトレットモール

インフラの現状

- 歩車分離された道路が整備済み
- **緑道や歩行者空間**が充実
- 周辺に**公園等の地域資源**が存在
- 南大沢駅を中心に**路線バス網**が整備
- **徒歩中心**の交通手段

まちづくり上の課題

- **高低差による移動が負担**
- 同世代居住者の**高齢化**
- 交通機関の**乗換が不便**
- 近隣都市の商業施設との競争激化等による活力低下



● NT事業により、計画的にまちづくりを推進

今後のまちづくりへの外的影響

- リニア新幹線の橋本駅開業による訪問客の増加（2027年東京-名古屋間）
- 2050年カーボンニュートラルの推進
- 5G等の通信技術の進展
- 自動運転技術等の先端技術の進展
- 地震等の大規模災害

南大沢スマートシティの目指すべき姿

- 住民の行動範囲は最寄駅周辺的生活圏が中心となる
- リニア開業に伴う訪問客の取込み

- ・駅前地区の魅力等を更に高めるとともに、周辺の住宅地や公園とのアクセスの利便性の強化
- ・環境負荷の少ない最先端技術を取り入れたスマートなまちの実現
- ・産学公の連携強化

今後のまちづくりへの内的影響

- 定期借地契約終了後の新たな都有地活用
- 高齢者の増加、就業人口の減少
- 個人の生活様式の急速な変化：ネットショッピング、リモートワークの進展
- 地域コミュニティの希薄化
- 都立大学と地域との新たな繋がり

- 南大沢はコンパクトなまちやウォーカブルなまちが実現
現在の土地利用やインフラを維持しつつ、最大限活用
- 「先端技術を南大沢の象徴」とすることで、まちの利便性や魅力をさらに高めていく
- まち全体が「先端技術のショーケース」となるように、行政、大学、地元企業、通信事業者等
が、率先して取組を進めるとともに、先端技術を実施する事業者に対し、フィールドを提供
- 人やモノが集中する駅直近には、先端技術のコアとなる取組を先行して実施
- 環境負荷が少ない次世代技術の積極的な採用



将来像に関する議論の振り返り

11月14日（火）に開催した将来像検討会や第3回まちの賑わい部会、モビリティ部会では、「水平展開する共通の特徴」と「南大沢独自の魅力」の二面でのコンセプト策定等、活発な議論を行いました

X 議論内容のコンセプトへの反映箇所

コンセプトの要素	コンセプトの考え方
	共通の特徴
	南大沢独自の魅力
	来街者

- ✓ 南大沢スマートシティ協議会としてどの方向を向いているのか、**総花的ではなく“尖った”コンセプトの策定**が肝要
- ✓ **水平展開する上での共通の特徴**と、**南大沢独自の魅力**の二面を意識したコンセプトを策定してはどうか
- ✓ **住民や来街者等ユーザーの視点**を含めた定義をすることが望ましい

- ✓ ニュータウンでは共通して**緑地・公園が多く配置**されている } **尖らせるポイント① 豊かな自然環境**
- ✓ **市とニュータウンの両者の歴史・生活文化を所有**する } **尖らせるポイント② 既存ストックとの融合**
- ✓ 既成市街地においてスマートシティ化を目指しており、**先端技術と既存の街の魅力の融合**が求められる }

- ✓ **公共と民間、大学が連動**し、南大沢全体をリビングラボと位置づけ、先端技術を活用した**教育・実証実験の場**を目指してはどうか } **尖らせるポイント③ 産学公連携**
- ✓ **大学とも連携しながら、多様な事業者が先進的な取り組みができる状態**に向けて、**ハード・ソフト・規制緩和等への対応**の体制作りが肝要 }

- ✓ 南大沢は時代を経ながら来街者が増加傾向にあることから、**若い世代を取り込み街（住民）の新陳代謝**を進めていきたい
- ✓ 地域全体のモビリティの視点で、既存交通の見直しの他、既存交通でカバーしきれていない交通弱者への移動の補完や、健康増進のための移動を促す仕組みの構築が望まれる
- ✓ 自家用車に頼らずとも、誰もが等しく移動可能なまちを目指してはどうか
→ **誰もが等しく生活の質を向上させられるようなまち**を目指してはどうか
- ✓ 来街者の需要を取り込んだうえで、地域住民に対して現状よりも、もう一回多く外出する機会が創出される将来像が望ましい

- ✓ 一般的なニュータウンと異なり大学や大規模商業施設がある
→ 住民だけでなく、**外からの来街を促進**する仕掛けづくりにより、定住人口以上の需要を喚起することを目指してはどうか

南大沢スマートシティの将来像（ビジョン・コンセプト）（本年度案）

将来像に関する議論内容を踏まえ、南大沢スマートシティのビジョン、コンセプトの本年度案として以下を提案します。ビジョン、コンセプト、コンセプト実現により得られるユーザーの状態について、新たに追加や修正したい要素がありましたらご意見をお願いします

ビジョン

既存ストックと先端技術が融合したショーケースとしての〇〇のまちを実現

(ex：多様性のある、交流が生まれる、新たな価値を創造する、南大沢ダイバーシティなど)

コンセプト

自然×都市

～自然と調和する
カーボンニュートラルな憩えるまち～
a 周辺の緑豊かな自然環境と
街なかの先端技術が体験ができるまち

既存ストック+新サービス

b 既存の地域資源と
c 新たなサービスが融合するまち～
既成市街地・資源と先端技術が融合し、
多様な交流や活動を促進するまち

産学公

～産学公連携による
スマートなまち～
d 産学公連携により、
新たなイノベーションが生まれるまち

先端技術

先端技術の活用、ICT共通基盤の構築

住民

持続的に新しいサービスを楽しみ、
地域と世代・立場を超えて繋がり、
i 街への愛着が醸成され、
生活の質が向上している状態

来街者

自然・生活文化・歴史を体
感じ、常にアップデートされる
街にわくわく感を抱き、
h j 街に積極的に訪れ、住みた
いと思う状態

大学

大学研究や学生生活を通じて、
まち・人との繋がりを持ち、
i 大学と街と関わりが深まり、
ともに発展していく状態

事業者

f g 実験フィールドとオープンデータ、
大学研究が活用可能であり、
新たな多様な事業者が生まれ、
成長していく状態

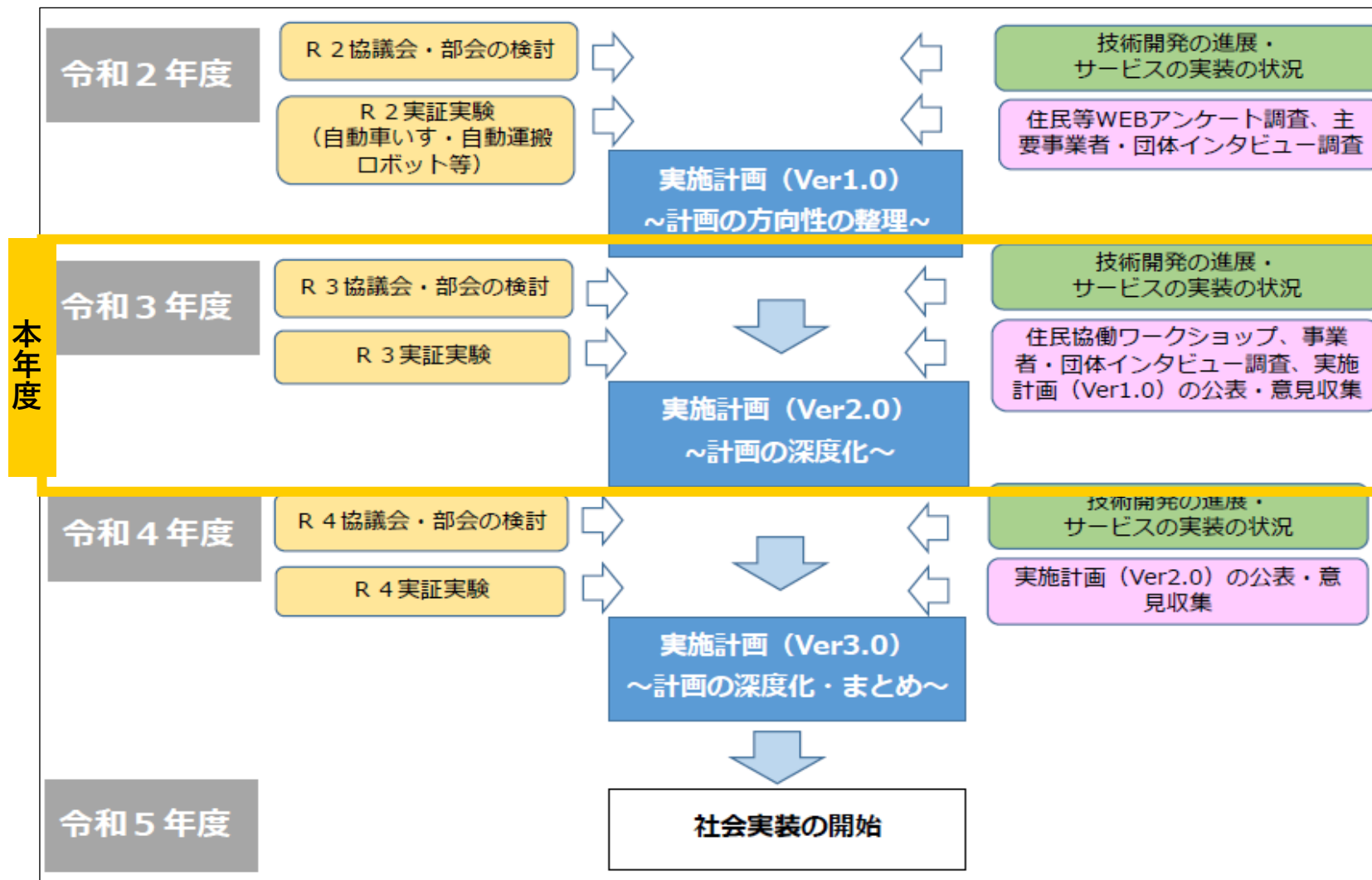
本アジェンダにおけるゴールと論点

本アジェンダでは、実施計画改定の方向性の認識をすり合わせることを目指し、ご報告します

ゴール	➤ 実施計画改定の方向性をすり合わせる
論点	N/A
報告の流れ	<p>➤ 事務局より、実施計画改定の方向性及びポイント、改定概要をご説明した後、質疑応答を行い認識をすり合わせる</p>  <pre>graph LR; A[■ 実施計画改定の方向性] --> B[■ 実施計画書改定のポイント]; B --> C[■ 改定概要]</pre>

本年度の改定の方向性

本年度は昨年度策定の実施計画を深度化することを目的に、協議会・部会の検討内容、実証実験結果、ワークショップやインタビュー結果、技術開発の進展・サービスの実装の状況等を踏まえ改定を行います

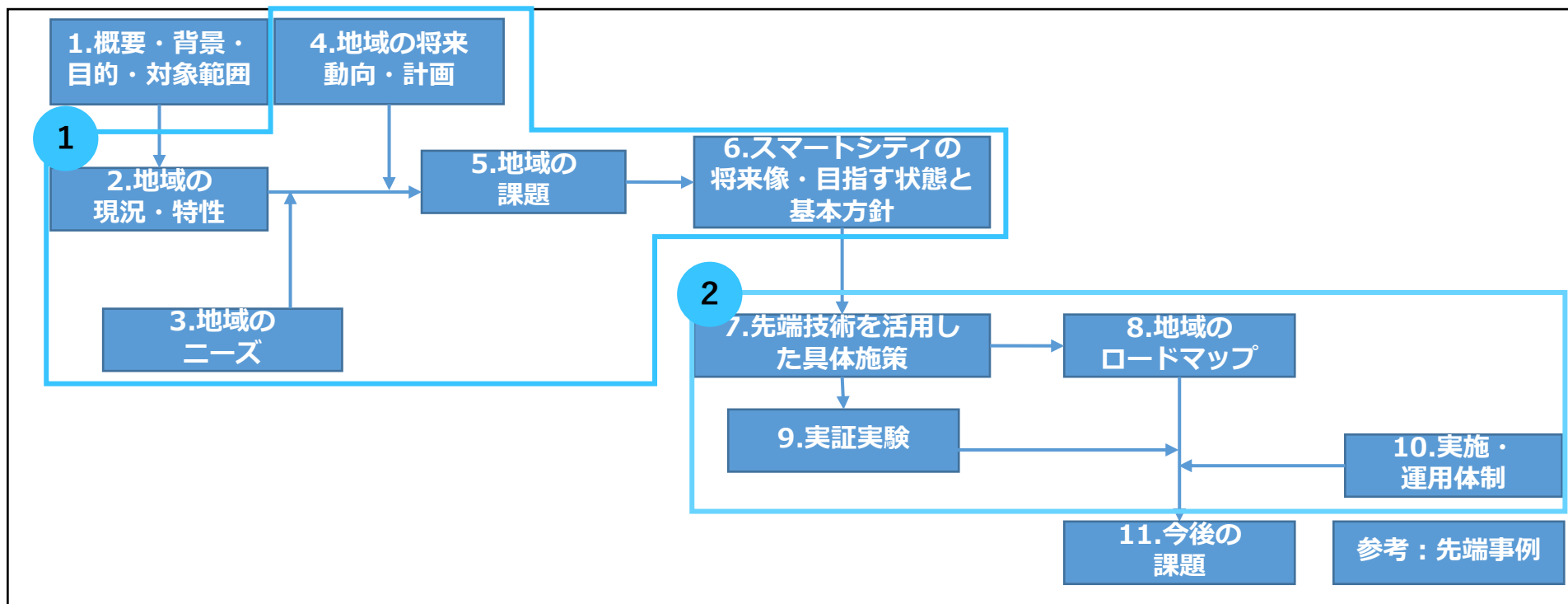


本年度の実施計画改訂ポイント

本年度は地域課題の深掘りや将来像、R5時点の社会実装施策の具体化を中心に実施計画を改訂予定です

主要改訂ポイント

- 1** 南大沢にどのような課題があり、南大沢スマートシティとしてどのような将来の姿を目指すのか
 - 南大沢の地域課題を住民や事業者を含めて深掘りをする
 - 南大沢スマートシティとしての将来像・プレイヤーの目指す状態を定義する
- 2** R5年度以降、誰が何を社会実装するのか
 - R5で社会実装の実現可能性の高い施策について、**想定主体者と調整を進め、スキームを具体化する**
 - R5以降の協議会体制検討のための**論点を提示する**



実施計画構成（案）

南大沢の将来像や実証実験結果、ワークショップやインタビュー結果、社会実装に向けた検討、先進事例の整理等を踏まえ改定を行います

XX :更新内容

R2年度 実施計画（V1）	
章	内容
1. 概要	• 背景・目的や本協議会の対象範囲、検討の流れ
2. 地域の現況	• 地域の概況とテーマ別の現況を提示
3. 地域のニーズ	• 住民・来街者へwebアンケートを実施した結果を提示
4. 地域の将来動向・計画	• テーマ別に東京都・八王子市の将来計画を提示
5. 地域の課題	• テーマ別に現況・ニーズ・将来動向を踏まえて課題を整理
6. スマートシティの目標・方向性と基本方針	• スマートシティの目標・方向性と基本方針
7. 先端技術を活用した具体施策（案）	• 具体施策の一覧と活用イメージを整理
8. 地域の将来像とロードマップ	• テーマごと・全体の施策の実装イメージとロードマップを整理
9. 実施・運用体制	• 実施・運用体制の方針と他都市における事例を類型化
10. 実証実験	• R2年度の実証実験の内容・結果
11. 今後の課題	• 社会実装に向けた課題

R3年度 実施計画（V2）		
分類	章	更新方針
変更	1. 概要	✓ 対象範囲や検討の流れを本年度版に更新 ✓ 検討テーマの説明を追加
	2. 地域の現況	✓ 追加調査内容を追加
	3. 地域のニーズ	✓ 住民を中心とした全3回のワークショップと地域の事業者向けのインタビュー結果を追記
	4. 地域の将来動向・計画	✓ 南大沢の計画を追記 ✓ 本年度改訂する計画を反映
	5. 地域の課題	✓ 本年度の現況・ニーズ・将来動向調査を踏まえ更新
	6. スマートシティの将来像と基本方針	✓ スマートシティの目標・方向性をスマートシティの将来像（ビジョン・コンセプト）に差替
	7. 先端技術を活用した具体施策	✓ 本年度検討の新たな施策を追加 ✓ R5で社会実装を予定する施策を具体化
	9. テーマごと将来像とロードマップ	✓ 本年度の追加施策を踏まえ更新
	10. 実施・運用体制	✓ R5以降の実施・運用体制構築に向けた論点を追加
	8. 実証実験	✓ R3年度の実証実験の内容・結果を追加
	11. 今後の課題	✓ 本年度の議論内容を踏まえ更新
新規作成	参考：先端事例	✓ 他都市の事例を巻末に追加

(補足) 南大沢スマートシティ実施計画 (Ver1) への意見 (パブコメ)

- **公表時期** : 令和3年10月15日～11月15日 (1カ月)
- **公表方法** : 都・都市整備局 (協議会) ホームページに掲載 ※協議会ホームページにも案内
- **意見件数** : 30人

<実施計画 (Ver1) への主な意見> ※意見は今年度策定する実施計画 (Ver2.0) に反映

(1) 計画全般	<ul style="list-style-type: none">○ 目指すべき将来像が不明確○ 2050年カーボンニュートラルの具体的施策、超高齢者社会の具体的ソリューションを実証すべき○ リニア開通の橋本駅と南大沢の差別化を検討すべき○ コロナ禍を経たpost-new normalの視点を計画に織り込むべきでは○ 若い世代が住みたいと思う支援策 (子育て環境、職住近接、女性等の就労機会拡大等) を都市機能として組み込んだ計画になることを希望○ 実施計画に反対 ○南大沢にスマートシティは必要ない
(2) モビリティ	<ul style="list-style-type: none">○ 駅と公園を密につなぐ施策 (循環バス、ドローンの活用等) を実施してほしい○ シェアサイクル・電動車いすを活用しやすい環境整備・機会提供が必要○ ZEV・燃料電池車の普及について、現状では区内にEV充電設備や水素供給設備がほとんどない駅前商業施設周辺等に早急に整備を進めるべきでは
(3) 地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none">○ 地域コミュニティを意識した計画にしてほしい○ 小規模店舗の巻き込みが必要
(4) 計画への参画	<ul style="list-style-type: none">○ スマートシティのまちづくりに参画する機会を設けてほしい○ 障害者等の計画参画の機会
(5) 先端技術	<ul style="list-style-type: none">○ 都市OSなどデジタルインフラの整備方策について計画の中で具体化すべき○ 5Gの安全性等を懸念
(6) その他	<ul style="list-style-type: none">○ 南大沢駅前への病院の設置を要望